

海岸漂着物対策について



2023年1月28日

環境省 水・大気環境局海洋環境室

小林 豪

- (1) 河川ごみの取り扱いについて
- (2) 「プラスチック汚染の終焉に向けて」の動きについて
- (3) 海岸漂着物処理推進法に基づく取組状況について

河川ごみの取り扱いについて

環廃対発第 100330002 号

平成 22 年 3 月 30 日

各都道府県一般廃棄物行政主管部（局）長 殿

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
廃棄物対策課長

海岸漂着物等の総合的かつ効果的な処理の推進について

美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律（平成 21 年法律第 82 号。以下「海岸漂着物処理推進法」という。）第 13 条に基づき海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（平成 22 年 3 月 30 日閣議決定。以下「基本方針」という。）が定められたところであるが、下記の点に留意の上、関係機関、民間団体等と十分な協力及び連携を図り、海岸漂着物等の円滑な処理に向け、適切な対応を行うよう、貴都道府県内の市町村に対して周知方お願いする。

なお、本通知は地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 245 条の 4 第 1 項の規定に基づく技術的な助言であることを申し添える。

記

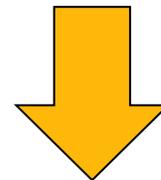
1. 海岸漂着物処理推進法における市町村の役割

海岸漂着物処理推進法においては、海岸管理者等は、その管理する海岸の土地において、その清潔が保たれるよう海岸漂着物等の処理のため必要な措置を講じなければならないとともに、市町村は、海岸漂着物等の処理に関し、必要に応じ海岸管理者等に協力しなければならないとされている（同法第 17 条第 1 項及び第 3 項）。

また、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 147 号）においては、市町村は、一般廃棄物の適正な処理に必要な措置を講ずるよう努める責務があり、一般廃棄物処理計画に従って、その区域内における一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないうちに収集、運搬及び処分しなければならないとされるとともに、産業廃棄物の処理もその事務として行なうことができるとされている（同法第 4 条第 1 項、第 6 条の 2 第 1 項及び第 11 条第 2 項）。

ついては、各市町村にあっては、基本方針に則り、海岸漂着物等の円滑な処理に係る市町村の協力の在り方に関し、海岸漂着物対策の経緯や体制、海岸漂着物等の実態等、地域の実情を踏まえ、関係者間で合意形成に努め、必要に応じて、海岸漂着物等の処理に御協力いただくようお願いする。

- ・海岸漂着物処理推進法（平成 21 年 7 月 成立）
- ・海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（平成 22 年 3 月 閣議決定）



以上の 2 つが定められたことから、

地方自治法に基づく技術的な助言として、

海岸漂着物等の円滑な処理に向け、

市町村の役割とボランティアにより

回収されたごみの取り扱いについて、

都道府県を通じて市町村に通達

○海岸漂着物等の総合的かつ効果的な処理の推進について（平成22年3月30日） ※一部抜粋

1. 海岸漂着物処理推進法における市町村の役割

- ・海岸管理者等は、その管理する海岸の土地において、その清潔が保たれるよう海岸漂着物等の処理のため必要な措置を講じなければならない。
- ・市町村は、海岸漂着物等の処理に関し、必要に応じ海岸管理者等に協力しなければならない。
- ・市町村は、一般廃棄物の適正な処理に必要な措置を講ずるよう努める責務がある。

2. 民間団体等が回収他海岸漂着物等の取り扱い

- ・民間団体等が**ボランティア活動**として海岸漂着物等（**海や湖などにおいて**、漂流、堆積又は散乱しているごみ等も含む）を**回収した**際に発生した廃棄物については**一般廃棄物**である。
- ・**市町村にあつては**、必要に応じて民間団体等の関係者と**分別区分の調整等を行い**、回収された海岸漂着物等を市町村の廃棄物処理施設において**処分する等の善処をお願いする**。



通達の解釈

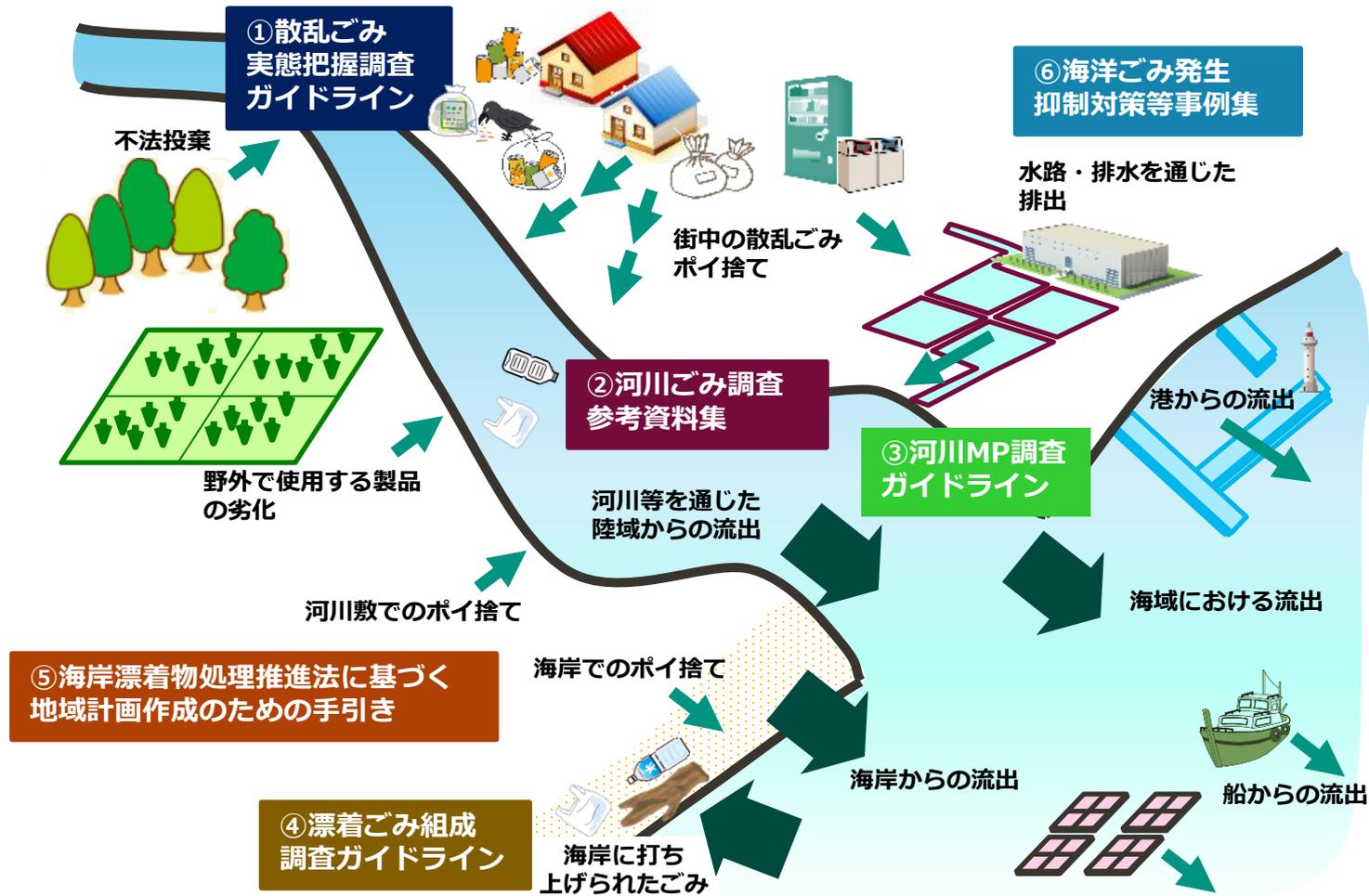
河川ごみの取り扱いについては、、、

- 民間団体等がボランティア活動として回収した際発生した廃棄物については一般廃棄物である。
- ※ **ただし、事業委託等により**海岸漂着物等を回収する場合、事業活動に伴って生じた廃棄物に該当し、その種類によって、**一般廃棄物又は産業廃棄物**となる。
- 本通知における「海岸漂着物等（海や湖などにおいて）」には、**河川も含む**。

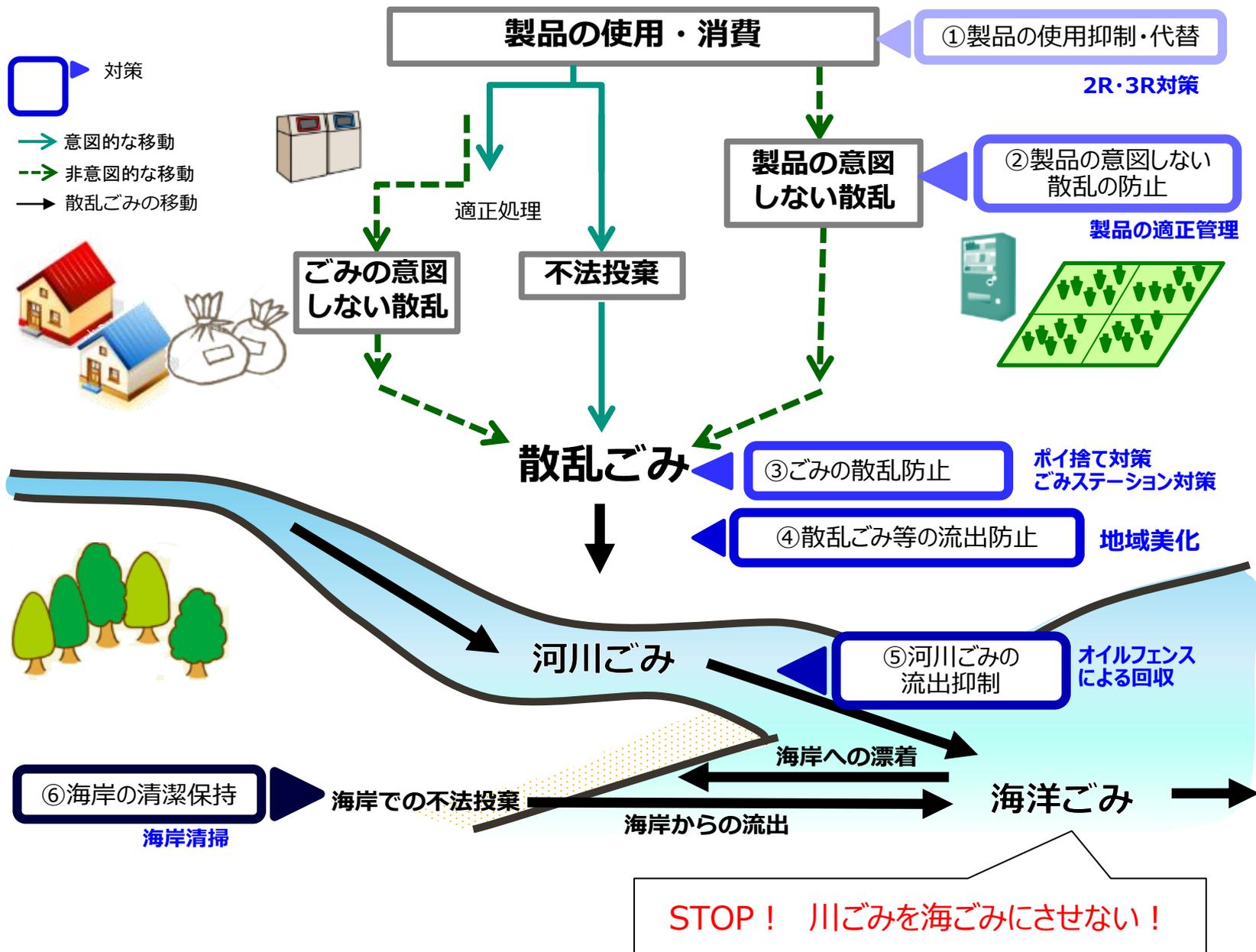
河川ごみの処理においては、自治体と十分に相談した上で取組をお願いいたします。

海洋プラスチックごみに関する各種調査ガイドライン等

環境省では、内陸から河川を經由して海洋へ流出するごみの量・組成等を経年的に把握するための海洋プラスチックごみに関する各種調査ガイドライン等を作成し、2021年6月に公表。



海洋への流出経路と発生抑制対策（イメージ）



「プラスチック汚染の終焉に向けて」 “End Plastic Pollution”

プラスチック汚染に関する条約交渉

- 2022年3月の国連環境総会（UNEA）で、国際文書（条約）づくりに向け、**政府間交渉委員会（INC）の設置**を決議。**2024年末までに作業完了**を目指す。
- 2022年11月28日～12月2日、ウルグアイ プンタ・デル・エステにおいて、**政府間交渉委員会第1回会合（INC1）開催**。

INC1の結果概要

- 約150か国から2300人以上（民間、NGOも含む）が参加
- 議長（ペルー前外相）が選出され、**交渉が正式に開始**。
- **小野洋 環境省地球環境審議官が、アジア太平洋地域代表の理事候補に指名**され、同地域の代表ステートメントの取りまとめ、域内各国の巻き込み等に尽力。次回会合にて理事就任予定。
- 各国・地域の発言から、条約策定の方向性や今後の論点が見えてきた。



（概ね一致）

- ・条約の目的は、人の健康、生物多様性及び環境を保護することとすべき。
- ・**世界共通の目標設定**が必要。
- ・**国別行動計画の策定・報告・評価**の仕組み、各国の取組の透明性が重要。
- ・プラスチックの製造から廃棄までライフサイクル全体の取組が重要。
- ・科学的知見の集積・共有が重要。

（今後の論点）

- ・プラスチックの製造段階における取組は、世界共通で規制すべきか、各国に委ねるべきか。
- ・能力面・技術面・資金面での支援のあり方・規模（特に途上国が、先進国はより責任を果たすべきと主張）

条約交渉の今後のスケジュール

2022年3月	国連環境総会	・ 政府間交渉委員会（INC）の設置を決議 （2024年末までに作業完了を目指す）
2022年11月28日 ～12月2日	第1回交渉会合@ウルグアイ	・ INC議長を選出、条約の主要交渉議題の特定
2023年5月22日 ～5月26日	第2回交渉会合@フランス	・ 条約の要素案に関する議論
2023年11月13日 ～11月17日	第3回交渉会合@ケニア（仮）	
2024年2月26日 ～3月1日	国連環境総会	・ INCの状況報告
2024年4月	第4回交渉会合@カナダ（仮）	
2024年10月/11月	第5回交渉会合@韓国（仮）	
2025年以降	外交会議@未定	・ 条約を採択、各国の署名開始



Breaking the Plastic Wave

A Comprehensive Assessment of Pathways Towards Stopping Ocean Plastic Pollution

We developed perhaps the most comprehensive plastic system modelling tool to create a global analysis that evaluates various strategies to reduce ocean plastic flows and quantifies the associated economic, environmental, and social implications of each pathway.

Business-as-Usual: an untenable trajectory

Without action, the annual flow of plastic into the ocean will nearly triple by 2040, to 29 million metric tons per year. Current government and industry commitments are likely to reduce this figure by only 7 per cent.

BY 2040

2x PLASTIC GENERATION
3x PLASTIC LEAKAGE INTO OCEAN
4x PLASTIC STOCK IN THE OCEAN

29 MILLION METRIC TONS OF PLASTIC LEAKAGE INTO THE OCEAN IN 2040

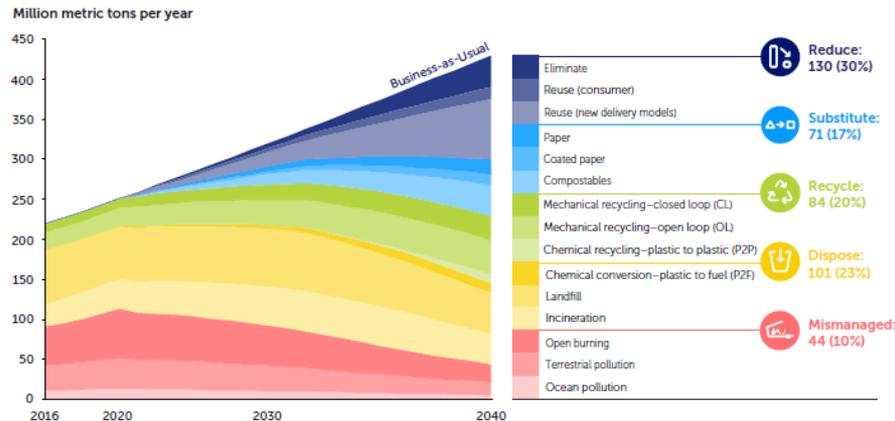
US\$100B

ANNUAL FINANCIAL RISK TO BUSINESSES IF THEY'RE REQUIRED TO COVER WASTE MANAGEMENT COSTS

Systemic change can reduce ocean plastic pollution by 80% by 2040

Industry and governments have the solutions today to reduce plastic pollution into ecosystems by about 80 per cent below projected Business-as-Usual levels by 2040 while also delivering on social, economic, and environmental objectives. Achieving this requires applying all system interventions concurrently, ambitiously, and starting immediately.

Fate of plastic under systemic change: a 'wedges' analysis



This 'wedges' figure shows the share of treatment options for the plastic that enters the system over time under the System Change Scenario. Any plastic that enters the system has a single fate, or a single 'wedge.' The numbers include macroplastic and microplastic.

VIABLE PATH TOWARDS

80%
REDUCTION
OF OCEAN PLASTIC
POLLUTION

MULTIPLE CO-BENEFITS RELATIVE TO BUSINESS-AS-USUAL BY 2040:

US\$70B
SAVING FOR GOVERNMENTS

700,000
MORE JOBS

25%
REDUCTION
IN PROJECTED
GREENHOUSE
GAS EMISSIONS

The innovation gap: near-zero leakage needs significant innovation

INNOVATION TO FOCUS ON 3 AREAS:



COLLECTION IN REMOTE/RURAL AREAS



SOLUTIONS FOR FLEXIBLE PLASTICS AND MULTIMATERIALS



MICROPLASTIC LEAKAGE FROM TYRES

AN IMPLEMENTATION DELAY OF FIVE YEARS WOULD RESULT IN AN ADDITIONAL

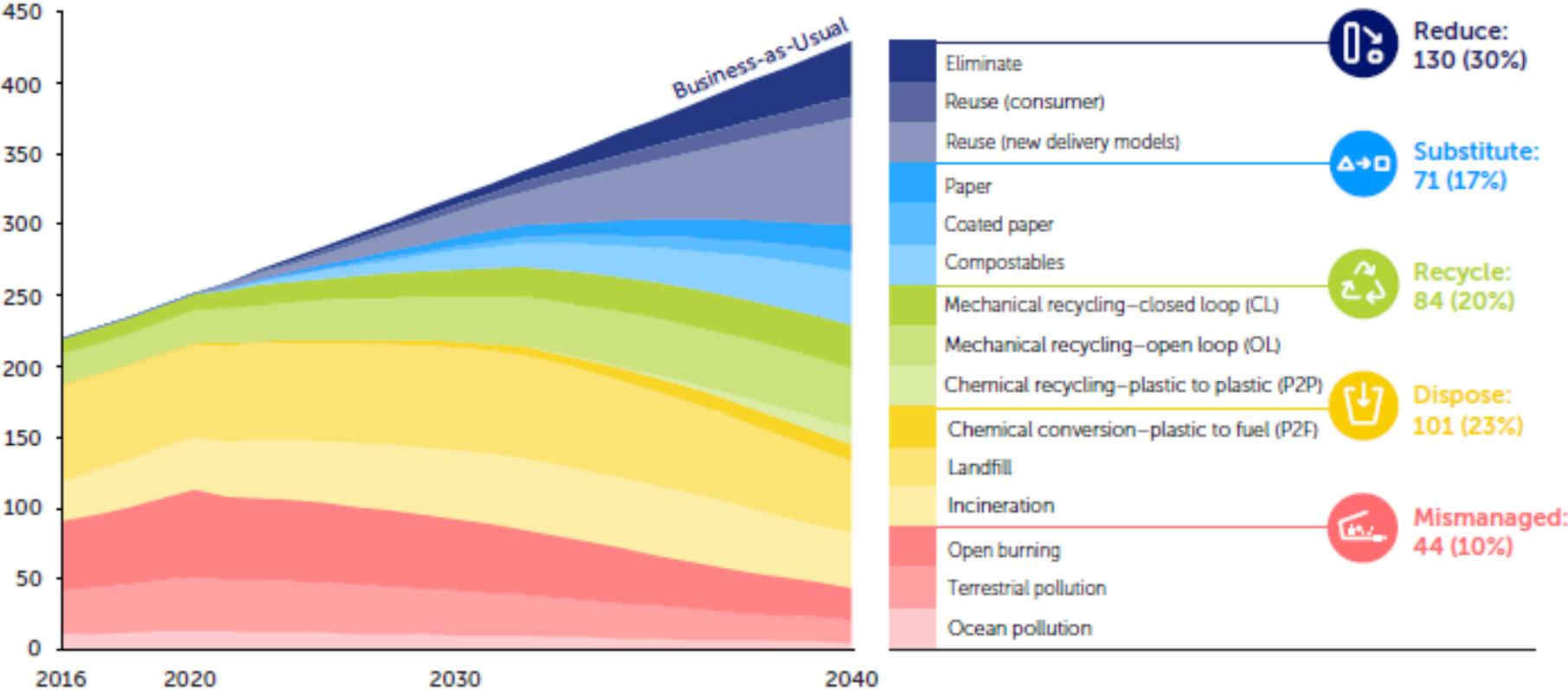
80 MILLION METRIC TONS OF PLASTIC GOING INTO THE OCEAN

The time to act is now

It is not the lack of technical solutions that is preventing us from addressing plastic pollution, but rather inadequate regulatory frameworks, business models, and funding mechanisms. The time is now: If we want to significantly reduce plastic leakage, we have the solutions at our fingertips.

Fate of plastic under systemic change: a 'wedges' analysis

Million metric tons per year



This "wedges" figure shows the share of treatment options for the plastic that enters the system over time under the System Change Scenario. Any plastic that enters the system has a single fate, or a single "wedge." The numbers include macroplastic and microplastic.

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

プラスチックのライフサイクル全般での“3R+Renewable”により、サーキュラーエコノミーへの移行を加速

①設計・製造段階



リデュース 解体しやすい 素材代替

プラスチック製品の設計を環境配慮型に転換

プラスチック製品の環境配慮設計に関する指針に即した環境配慮製品を国が初めて認定し、消費者が選択できる社会へ

- 製造事業者等向けのプラスチック使用製品設計指針（環境配慮設計指針）を策定するとともに、指針に適合したプラスチック使用製品の設計を認定します。
- 国等が認定製品を率先して調達することやリサイクル設備を支援することで、認定製品の利用を促します。

②販売・提供段階

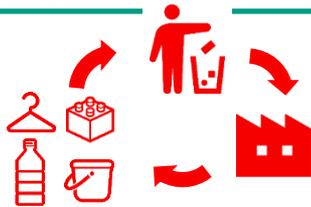


使い捨てプラをリデュース

小売・サービス事業者などによる使い捨てプラの使用を合理化し、消費者のライフスタイル変革を加速

- コンビニ等でのスプーン、フォークなどの、消費者に商品やサービスとともに無償で提供されるプラスチック製品を削減するため、提供事業者に対し、ポイント還元や代替素材への転換の使用の合理化を求める措置を講じます。
- これにより、消費者のライフスタイル変革を促します。

③排出・回収・リサイクル段階



排出されるプラをあまねく回収・リサイクル

あらゆるプラの効率的な回収・リサイクルを3つの仕組みで促進

- 市町村が行うプラスチック資源の分別収集・リサイクルについて、容器包装プラスチックリサイクルの仕組みを活用するなど効率化します。
- 使用済プラスチックについて、製造事業者等の計画を国が認定することで廃棄物処理法上の許可を不要とする特例を設けます。
- 産業廃棄物等のプラスチックについて、排出抑制や分別・リサイクルの徹底等の取組を排出事業者に求める措置を講じるとともに、排出事業者等の計画を国が認定することで廃棄物処理法上の許可を不要とする特例を設けます。

(参考1) 環境配慮設計の製品の先行事例

減量化、包装の簡素化



付け替えボトル
出典) 花王 HP



出典) 日本ハム HP



プラスチック容器の代わりに最中で
商品を包んだ桔梗信玄餅極
出典) 桔梗屋 HP

減量化



ストローレス対応学校給食用紙パック
出典) 日本製紙 HP

再生プラスチックの利用



100%リサイクル素材のペットボトル

代替素材への切り替え



外袋を紙パッケージへ変更
出典) ネスレ日本株式会社 HP

(参考2) 特定プラスチック使用製品の使用の合理化の先行事例

小売・飲食店での取組



穴あきカトラリー

出典) ファミリーマート HP



木製スプーン

出典) ローソン HP



バイオマスプラスチックを使用したカトラリー

出典) セブン-イレブン HP



紙製ストロー (FSC認証紙)

出典) スターバックスコーヒージャパン HP



(参考) 冷たい飲み物の蓋を削減



バイオマスプラスチックスプーン、プラスチックレンゲの有料化
出典) 餃子の王将 HP

宿泊施設での取組



竹製・木製アメニティ

出典) 帝国ホテル ニュースリリース



アメニティの客室設置を廃止し、フロントロビーで必要な分を提供

出典) スーパーホテル HP

クリーニング店での取組



白洋舎のリサイクル活動にご協力ください

ハンガーを回収してリユース、リサイクル

出典) 白洋舎 HP

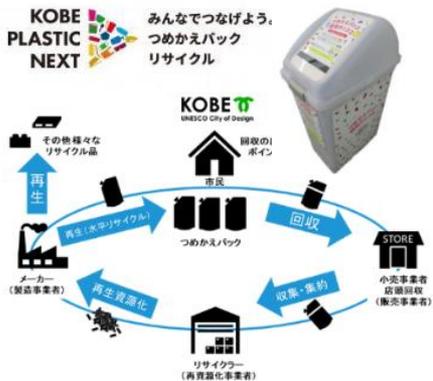


薄肉化した衣類カバーの使用

出典) 全国クリーニング生活衛生同業組合連合会/一般社団法人クリーンライフ協会 HP

(参考3) 使用済プラスチック使用製品の自主回収を行う先行事例

つめかえパック



出典) 神戸市 HP

化粧品容器



28の化粧品ブランドが賛同し、
化粧品の空容器の回収リサイクル
プログラムを実施。

出典) 株式会社ロフトHP

おもちゃ



出典) 日本マクドナルド株式会社

ペットボトル

スーパー用 自動回収機
(イトーヨーカドー等)



コンビニ用小型自動回収機
(セブン・イレブン等)



出典) 株式会社セブン&アイ・ホールディングスHP

歯ブラシ



出典) ライオン株式会社 HP

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行について

製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までの、プラスチックの**ライフサイクル全般**での

3Rや再生素材・再生可能資源（紙・バイオマスプラスチック等）への切り替えを進め、

サーキュラーエコノミーへの移行を加速。

第204回通常国会で成立
令和3年6月11日公布
令和4年4月1日施行

**G20 大阪
ブルー オーシャン ビジョン**



海の新たなプラ汚染ゼロの
世界の実現

**2050年カーボン
ニュートラル**



温室効果ガス排出量を全体として
ゼロにする

**プラスチック
資源循環戦略**

(令和元年5月31日)



マイルストーンの達成を目指す

【マイルストーン】

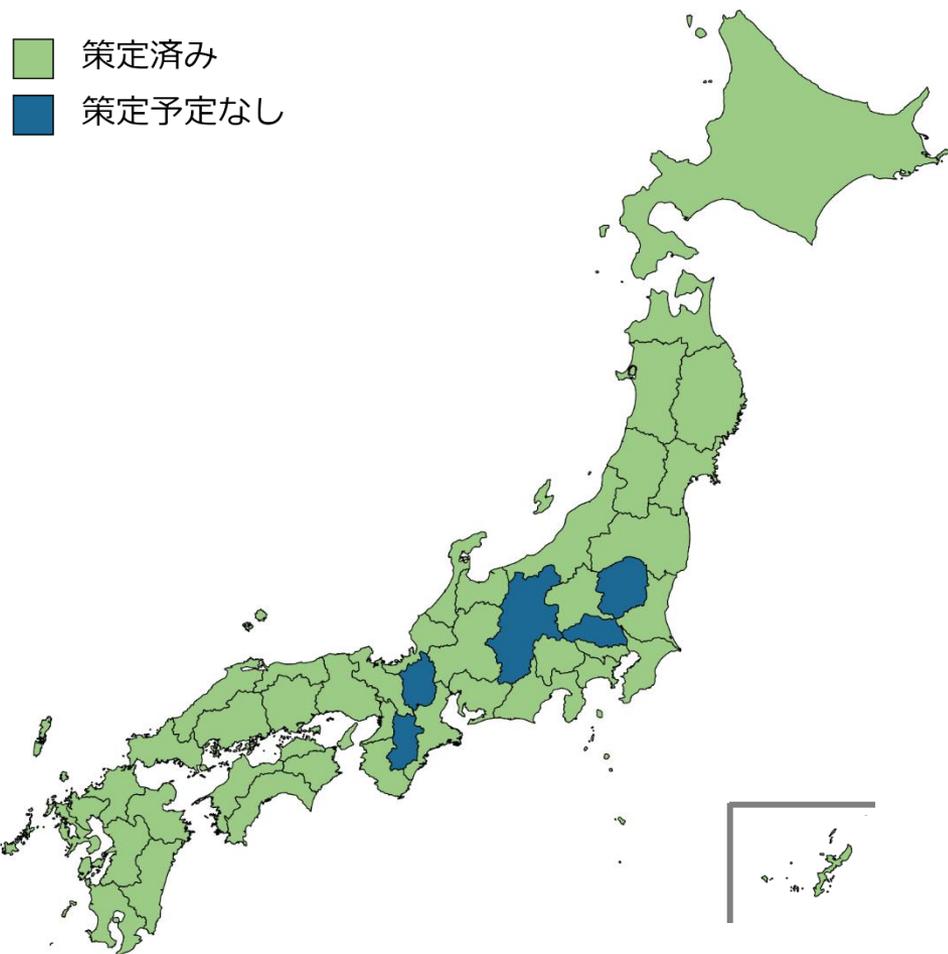
- 2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに
- 2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制
- 2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル
- 2030年までにプラスチックの再生利用を倍増
- 2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入
- 2035年までに使用済プラスチックを100%有効利用

海岸漂着物処理推進法に基づく 取組状況について

地域計画策定状況（法第14条）

- 地域計画は42都道府県が策定済み、5県が未策定(主な理由：内陸県で海がない)であった。

策定状況	都道府県数	都道府県名
策定済み	42	<p><u>計画改定済み</u>： 宮城県、山形県、千葉県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、島根県、山口県、愛媛県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県</p> <p><u>計画改定予定あり</u>： 青森県、岩手県、秋田県、群馬県、東京都、神奈川県、山梨県、愛知県、香川県、福岡県、熊本県</p> <p><u>計画改定予定なし</u>： 北海道、福島県、茨城県、新潟県、静岡県、三重県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、高知県、佐賀県、長崎県</p>
策定中	0	
未策定	5	<p><u>策定予定なし</u>： 栃木県、埼玉県、長野県、滋賀県、奈良県</p>
計	47	

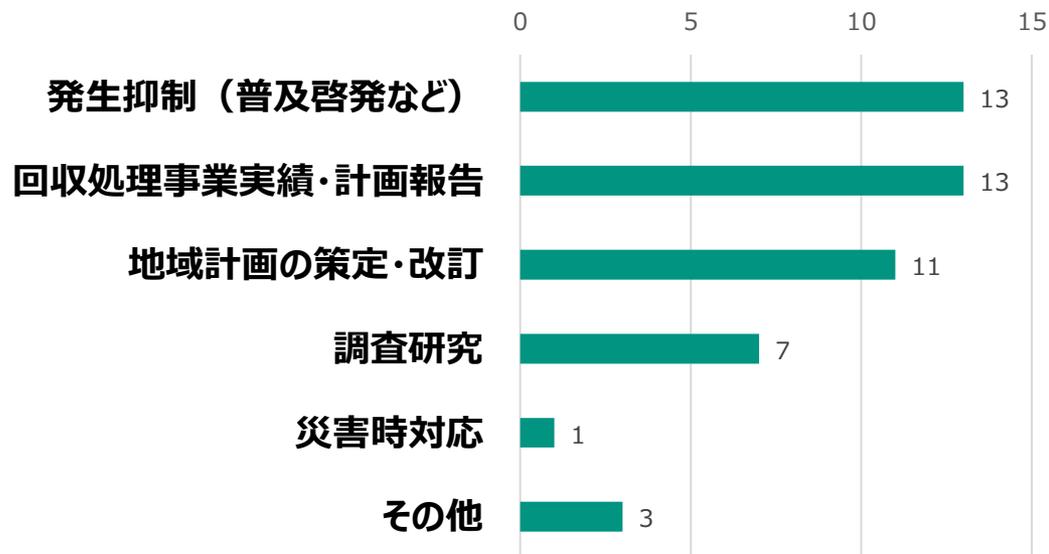


海岸漂着物対策推進協議会の組織状況（法第15条）

- 「関係者が円滑な意思疎通や連絡調整を図るため、積極的に」設置（基本方針）
- 組織済み28道府県、検討中は2県、他組織での対応は6県であった。
- 主な構成員は、国の関係機関やNPO/NGO法人等であった。構成員に市区町村の担当者を含む21道府県のうち、内陸市町村からの参加があったのは13道府県であった。

組織状況	都道府県数	都道府県名
組織済み	28	北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、兵庫県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
検討中	2	検討中：宮城県、鳥取県
他の組織で対応	7	東京都、神奈川県、静岡県、岡山県、広島県、高知県、和歌山県
組織予定なし	10	福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、長野県、滋賀県、大阪府、奈良県、島根県
計	47	

協議会における協議事項（道府県数、複数回答あり）



【その他の内容】

- ・木造船等漂着時の対応
- ・市町の取組
- ・海洋ごみ対策の最新の動向について

海岸漂着物処理推進法施行からの状況



コロナ禍の影響の一例

- ①海ごみゼロウィーク他、海洋ごみ回収、発生抑制に係るイベントの縮小、中止
- ②自治体向けに行っていた漂着ごみの実態把握調査に係る現場研修がオンライン化
- ③海洋ごみのモニタリングに関する国際協力の場面で対面研修がオンライン研修に変更。2020年に予定していた共同調査も延期。

見直しの時期・課題について目下内部で検討を進めているところ

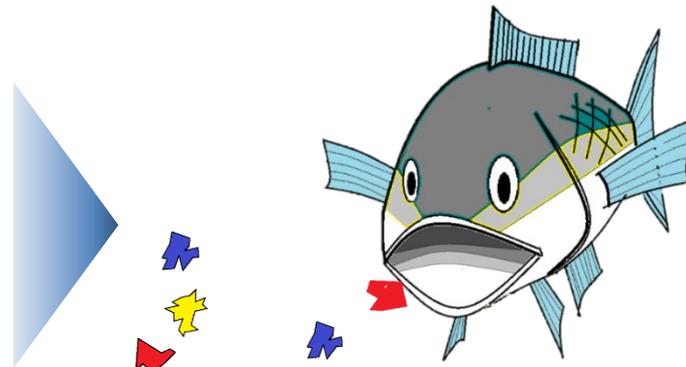
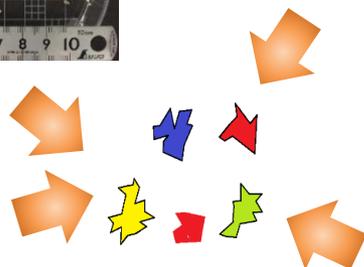
(参考) マイクロプラスチックの影響



性能を向上させるため
化学物質を配合



海水中の有害物
質を吸着



食物連鎖を通じて、生物にプラスチック粒子や
有害物質が取り込まれるおそれが指摘

現状わかっていること

今後研究が必要なこと

ヒトへの健康影響	ヒトへの健康影響に関する証拠はない
プラスチック粒子の影響	経口摂取することによる摂餌の減少、体重の減少等が確認されている
形状による毒性の違い	実験室では、大きさ・形状等による毒性の違いが指摘
食物連鎖による濃縮	実験室では、食物連鎖を通じたマイクロプラスチックの移行自体は確認
有害物質の取り込み	マイクロプラスチックを介した有害化学物質の生物への取り込み自体は確認
	他の粒子と比較して毒性が高いかという知見は不足
	どの程度影響が異なるかの知見は不足
	食物連鎖により量が濃縮されるかについての知見は不足
	海水から直接取り入れられる量等と比べ多いかという知見は不足

将来、海洋中のマイクロプラスチックがどの程度増加し得るのか、海洋生態系にどのような影響を与え得るのか、さらなる研究が必要。

ご静聴ありがとうございました
